

1 「フジノゲート」H21作:高橋 政行



芸術のまちFUJINOを訪れる人々を迎え、毎路に迎う人々を見送る「芸術の門」。

藤野アートを巡る際は、ここから始まり、ここへ帰り着く。人々の心の中に芸術の灯が輝き続けることを夢見ながら、ゲートは静かに待機。

※藤野観光案内所入り口に設置されています。

2 「藤波」H2作:呉倉 巖



深い崖の記憶。目にするたび、日常の中で忘れ去れた情景や色彩が、今も色褪せることなく、人々をやさしく迎えてくれる。

※旧全日空ビルリニューアルしました。

3 「静(とろ)」H1作:深谷 泰正



この作品は、植物の種が発芽する時の、内から外へ発せられる自然の強い生命力を表現している。

4 「パッパフロー」S63作:ジム・ドラン



元々しく大地を駆け回るパッパフローの雄々しい姿。生まれた作品である。石という素材の個性と、作者の関わりによって展開され、石の位々な表情を表現している。

※藤野総合芸術美術館に設置されています。

5 「記憶容量一水より、台地より」H3作:関本 敦生



これは、置かれる場所からの想像ではなく、作者の内面思考から生まれた作品である。石という素材の個性と、作者の関わりによって展開され、石の位々な表情を表現している。

※日蓮大僧のたもと開道場跡に設置されています。

6 「両側の丘の斜面」H2作:三梨 伸



変化に富む自然の中に異質な造形を持ち込むことにより、空間の緊張感、相対性、小宇宙を醸成する。

7 「COSMOS」H2作:村上 正江



彼女が追つめる軌は、内に秘めた愛を持って太古へはびこり、遠く宇宙へ旅立つ。

彼女の思いは悠久の風に乗る、無限の世界へと続いている。

8 「限定と無限定」H3作:古郷 秀一



周辺の世界を直接作品に取り込むため、細い鉄筋を幾面にも重ねて、半透明の空間を作っている。これは、距離と空間の固定的な枠を感じ、見え隠れする新たな空間を提示している。

作品周辺の造型をコンクリートの壁の中に、自然への呼びかけに込められている。

9 「射影子午線」S63作:加藤 義次



箱内球状パイプから1988年10月の天象を望めば、火星が見えるように設置されている。

※アートワーク観望所の周囲は橋内、双曲線、放物線の3種類で構成され、射影空間の中に宇宙の広がりを感じることができる。

10 「山の目」S63作:高橋 政行



見慣れた山が突然目を覚まし、裏返る下界にメッセージを伝える。雲のうららかな空の隅の隅から、あるいは夏の夕暮りと鮮やかな緑、真赤に燃える紅葉の中から、そして静寂の雪に覆う。四季の中で、これら作品がどのように呼吸を始めるかを見届けた。

※藤野神社入り口に設置されています。

11 「森の守護神」H3作:佐光 庸行



藤野の自然を大胆に切り取り、石の素材でランダムに、しかもダイナミックに表現している。群木の立命感とあるべき姿を想像させ、また、DNA(染色体)の遺伝子をも連想させるこの作品は、過去から未来へと、自然のたくましさを感じさせる。

12 「回帰する球体」H1作:中瀬 順志



どこからか流れてきてここに落ち着き、周囲の自然に馴染んでしまった巨大な隕石。

新しい命が吹き出さずして自然と同化していく様子を見た作品。

13 「伏える」H1作:植草 永生



人間社会の営みは、自然界の営みに似て、変化する環境と密接な関わりを持っている。

「伏える」は凝縮された万物の叫びであり、自己への回帰でもある。

※藤野神社裏手に設置されています。

14 「縋り合う石たち」H2作:杉浦 康益



実は同じ形に作られた8個の作品。置き方を覚えることにより、それぞれに個性と存在感を生み出す。時間という連続の中において、変わらぬ、さりとて迎合もせず、常に進化的な変化の個性を秘めた作品である。

※藤野神社入り口に設置されています。

15 「舞典舞儀」H2作:加藤 義次



自然との共鳴があり、光の投影がある。

時間という連続の中において、変わらぬ、さりとて迎合もせず、常に進化的な変化の個性を秘めた作品である。

※藤野神社入り口に設置されています。

16 「FLORA-FAUNA」H2作:原 智



巨大な昆虫のような作品を置くことにより、それまでの静寂な空間が破綻され、また新たな世界が広がる。

静かに死んで行く時間や空気に、永続的な刺激と振動を与えた作品。

17 「庵(いおり)」H3作:斉藤 史門



石の中に、あたかも何十年前から存在しているかのような植物が咲き、また新たな世界が広がる。

静かに死んで行く時間や空気に、永続的な刺激と振動を与えた作品。

18 「左「未来への運動」右「季節の翼」」H3作:中瀬 順志



自然と供たのすばらしいパワーを表現した作品。

※この作品は「シュタイナー学園敷地内に設置されています。許可無く立ち入ることは厳禁されています。

19 「森の記念碑」H2作:池田 徹



鉄と石を使って、自然との調和と緊張感を演出。空間を切り取り、付けたしにすることにより、大自然を凝縮した瞬間を捉え、そこに新たな小宇宙を醸成している。

※藤野神社裏手に設置されています。

20 「芽輪」H2作:田辺 光彰



大自然の驚嘆は発芽の瞬間。

この作品は、植物が芽を出す時の深まじいエネルギーを表現している。

その形はエリの発芽から発想し、光を求めると同時に、雨を待っている。

21 「雨」H8作:フェリット・オズエン



芸術の道のゆるやかな敷道に、窓から雨を眺める「Rain on my lawn window」がある。

窓の先には、大空に湧き出た雲が、大団に雨を降らせる情景。天の恵み、人間の自然と共に感じさせてくれる作品。

22 「あなたと…明日の空の色について」H3作:武荒 信樹



森林の広がる斜面に、鉄筋のパラソルで構成された幾何学彫刻作品。自然の恵み、人間の自然と共に感じさせてくれる作品。

※藤野神社裏手に設置されています。

23 「空を待つ柱」H3作:土屋 昌義



ステンレス板を組み合わせて造られた塔。これまでの空間とは異なる垂直空間を創造することで、自然との調和を創った作品である。

※藤野神社裏手に設置されています。

24 「カリブー」S63作:ジム・ドラン



生命力に溢れたシカ科の動物カリブー。自然に寄り添って、今にも跳ねたろうと躍る。その見事な角に秘められた強さは、命の輝きを感じさせてくれる。

※名倉グラウンドに設置されています。

25 「トライアングル・ウィンド・ソング」H2作:鈴木 明



風の音、木の音、土の音。時には雨の音が風に伝わり、また光が風に伝わり、命の輝きを感じさせてくれる。

※名倉グラウンドに設置されています。

26 「過去からのひびき(エコー)」S63作:アロイス・ラング



都市と自然、2つのオブジェからなる作品。人間社会が進化してきたが、自然は変わらず、共に歩む道は残されている。しかし自然の中心に人間の活動のような痕跡が残されている限り、人間は其の歩む可能性を失ってはならない。

※藤野神社裏手に設置されています。

27 「緑のラブレター」H1作:高橋 政行



都市外環境整備を代表する作品。インパクトのある姿から多くのファンを持ち、メディアにもたびたび登場している。自然の素晴らしさ、環境の大切さを、山がアートを高く高く見守る人々の心の中を「森と調和のメッセージ」を送り続けている。

※中央自動車道、藤野パーキングエリア、及藤野駅から見ることが出来ます。

28 「カナダ屋」S63作:ジム・ドラン



大自然の中を、力強く飛翔するカナダ屋の姿。山と調和して佇む人々の心の中を「森と調和のメッセージ」を送り続けている。

※中央自動車道、藤野パーキングエリア、及藤野駅から見ることが出来ます。

「芸術の道」案内板



豊かな自然に育まれた藤野の文化、芸術活動への出会いを案内します。芸術の道沿いや野外環境アート作品のある場所に設置されています。

藤野園芸ランド歩道



森林の森日本100園にも選ばれた広葉樹の中にある「藤野園芸ランド歩道」は、藤野の道の至る所で展開しています。芸術鑑賞とセットでマイナスイオン満点の緑の森の中を歩くコースは特におすすめです。



昭和の終わりに平成の初めにかけて、当時の藤野町のまきまきへリノビオセンターとした「ふるさと芸術村構想」。この構想の中で、全倉地区に30作余りの野外環境アート作品が造られました。それから30余年、作品たちは時勢の流れをその身に刻みつつ、今もなお人々にメッセージを送り続けています。

そんな想いから、このパビリオンを創りました。人と環境との関わりが大きく関わっている今の時代にこそ、作品たちが語りかける声を伝えたい。藤野の散策が、このパビリオンを巡りながらお楽しみください。